

今年の稲作りを振り返ってみますと前半は比較的安定した天候に恵まれましたが、梅雨明け以降の夏は長雨と日照不足による生育の不揃いがみられるようになりました。また度重なる台風の影響や天候不順ため秋の収穫量と品質が心配されましたが、ハサかけ米の生産が少し遅れた程度で、例年通り良質なコシヒカリが収穫できほっとしています。妙高山にも今年4～5回の降雪があり、現在は標高1,000m以上は真っ白になっています。今月末には当農園の圃場にも降雪が見られる時期になってきました。

現在は今年使った農機具の整備をし来年の米作りの準備をしています。

トラクターの整備作業



コンバインの整備作業



先月号でも、来年の米作り準備作業について紹介しましたが、更に秋耕耘（秋起こし）について述べます。収穫の終わった圃場をすぐに耕耘することで稲作りの原点である「土づくり」に効果があるからです。土づくりとは、収穫後の乾燥した圃場を耕耘することで、土が空気に触れる面積が増し通気性や透水性がよくなり、同時にすき込んだ稲藁も微生物の働きで分解が早くなり地力の増強をはかれるからです。

トラクターによる秋耕耘（秋起こし）作業



当農園では秋耕耘の前に有機肥料を全ての圃場に散布してから、秋耕耘を行っていますので、「土づくり」の効果が更に向上されています。

浄興寺の手づくり市に出展

11月2～3日上越市寺町の浄興寺境内で開催された「手づくり市」に参加出展し、メグスリノキの製品販売とコシヒカリのポン煎餅の実演販売を行いました。当日はあいにくの冬型天候の荒れ模様でしたが、ポン煎餅の実演には大勢の来場者が興味を示され賑わいました。



H26年産コシヒカリも、皆様方からご愛用をいただき感謝しております。前述しましたとおり、安全安心して食べていただける、**肝太くん家のミネラル米コシヒカリを御歳暮等の贈答品**としてご利用して頂きたいとお願ひ致します。（のし付き、専用袋、箱にて発送いたします）



H26妙高西条農園たよりは、今月号をもって休刊とさせていただきます。来年4月号から再刊いたします。

発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755 **妙高西条農園長 池田博子**
☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908 Eメール：ikedata@kanta.jp
ホームページ URL：<http://www.kanta.jp>

~~~~~